

口頭試験再現 文系技術者

所要時間 18 分で面接官の表情も終始穏やか。回答は文章的になることもあったが、身振り手振りを交えて説明した。以下、時系列に再現

8:00 開館と同時に 7 階受付へ。1 階ロビーでは別の試験の案内の女性がおり、技術士試験の係りはいないのでやや戸惑う。すでに何人かの受験者がきていた。口頭試験会場は建物の構造がやや込み入って分かりにくいと聞いていたので下見をした。その後、控室で用意していた資料を再度確認

9:40 頃、扉前に用意されたパイプ椅子に座る。しまった。早すぎた。廊下は寒い。

10:00

面接官左：では文系技術者さん。どうぞ入室してください

はい、失礼いたします。受験番号 ●●●●のフルネームと申します。本日はよろしくお願いたします

面接官右：それではお掛け下さい。

(雑談なし：いきなり始まる)

面接官右：まず業務経歴の 2 番目に記されている内容ですが、どのような方法でどのように砂防計画に生かされたか、具体的にどの場所での業務かを踏まえ説明頂けますか。

実際行った業務の流域名等を挙げて具体的に説明できた。

面接官右：なるほど、わかりました (頷き)

面接官右：では、業務経歴の 4 番目に担当された、業務の内容を説明してください。

航空レーザー測量成果を用いた解析例を具体的に述べていたが、はなしが終わる前に

面接官右：そのことは砂防施設配置にどのように活かされますか。

たとえば、過去の土石流堆積物の分布範囲、規模も明らかにできますので土石流の発生頻度が高いと判断されるので、砂防堰堤を優先的に配置するといったことです。

面接官右：なるほど、わかりました (頷き)

面接官左：では、業務経歴の詳細について質問したいと思います。深層崩壊や地すべりの発生する斜面の危険度を判定する方法について、対象地の特性も踏まえ説明してください。

はい、対象となったのは ●●の流域 (面接官左：メモの動作) で、(略) 斜面の不安定化から緩斜面になって安定するまでのストーリーを作成し、個別の斜面がどの段階に位置するかということの評価としました。

面接官左：深層崩壊か地すべりになるかといった点について、もう少し説明してください。

ここが最も身振り手振りを踏まえ、熱弁をふるった。いくつか突っ込んだ質問があったが、なんとか冷静さを保ち、お互いに納得しながら進めることができた。

面接官右：最近、想定を超える外力が発生し、深層崩壊もその一部と思うのですが、それでも砂防堰堤を計画された理由は？

保全対象がある場合は、完全にとはいかないまでも、できるだけ捕捉量を増やし避難する時間を確保することも必要と考えたからです。

面接官右：なるほど。わかりました。

このあとも3つ質問があり、お互い納得した様子で説明できた

2 人の面接官が目をあわせた後

面接官右：それでは技術者倫理について質問します。これまで公益に反するようなことに対応した経験がありますか、あればどう対処されたか教えて下さい。

自分の経験として問われたので、大きなものはなかったものの、調査結果を同時に進めている計画がうまくいくようにすり合わせてくれないか、という雰囲気を感じ、いやそれでは全体の結果も変えなくてはならないし、、、と提案した結果をそのまま用いてもらえるよう、説得を続けた、という話をした。

面接官右：はい。では CPD とは継続研鑽を意味しますが、重要な点を具体的に説明してください。

はい。研鑽結果の講習会よりも論文の投稿が重要といったような重みづけと、第三者にわかるように登録しておくことが重要と考えます。

面接官右：文系技術者さんの学会活動は？

砂防学会、地すべり学会、応用地質学会での論文投稿、発表が主です。

面接官右：学会活動のほか、CPD に該当する自主的な取り組みはされていますか

毎年社内巡検を実施しています。岩盤スケッチや地形調査、一昨年は、表層崩壊地の周辺で、土層強度の分布強度を調査しました。

面接官両者目を合わせて、頷きあり

これで試験を終了します。ご苦労さまでした。

有難うございます。失礼いたします